

科研費・基盤研究A「天文学との連携にもとづく考古学・考古史学研究法の構築」(19H00544)
の「日本固有の星名に関するフィールド調査・沖縄県沖縄本島」の研究成果報告書作成

北尾浩一

(1) 沖縄本島（浜比嘉島、伊江島を含む）で確認された「日本固有の星名」に関する天文民俗学的データ

①糸満市喜屋武漁港（10月18日（金）、友利健氏の案内）

●喜屋武の集落にて、A1さん（昭和9年生まれ、喜屋武地区出身）の話

・サンユシブシ（サンユーシブシ）

サンユシブシ。縦に三つ並んだり、横に三つ並んだりする。（オリオン座三つ星を意味すると思われる）3つ並んで出る、サンユシブシ（サンユーシブシ）。縦に3つ。明るい星。横にもなる。

●

● たてに三つ

●

よこにもなる ● ● ●

ユシ（ユーシ）はどういう意味か確認するが、「わからない」という答えがかえってきた。ブリブシと近い。同じくらいの明るさで明るい。

・ブリブシ

ブリブシ、固まった集まった星。父親から聞いた俚謡。広く歌われているていんさぐぬ花と歌詞が異なる。

てん（天）ぬブリブシや ユンデモユミシナル

ゆる晴らすニヌファフシムカテ

ワンチャルウヤヤ カミガヤテ （かみさま）

・ユーアカブシ

ユーアカブシ、大きな星が出る。ユーアカ。明け方、4時、5時。ヨアケブシ。（明けの明星をユーアカブシ）。ユーアカブシあがると夜明ける。

- ・午之方御嶽

午之方御嶽の名前はご存知で、ハーリー（海神祭）の日に拝むという。

（糸満市屋武公民館にて、「午之方御嶽に関連して、荒崎が午の方角だから、辺戸が子之方、浜比嘉が卯之方（うーぬふぁ）、万座が酉之方（とういぬふぁ）」と聞く）（写真右 午之方御嶽）



（写真下左は、下は糸満村落で、A1さんにインタビュー。下右は喜屋武漁港）



②糸満市糸満漁港（10月20日（日））

●A2さん（昭和6年生まれ、糸満出身）の話

- ・ブリブシ、フサアギ（星上ギ）

フシアギの2時間後に夜明けになる。ブリブシ、旧（旧暦）4月夜明けに見える。シングワチフサアギ（旧4月の風）。4月、5月のフシアギは、シングワチ（シンガチ、4月）フサアギ（フシアギ）とよぶ。台湾坊主（台風）の季節になり、急に風が強くなる。漁に出るのに注意する。

ブリブシ、ちょっと見える。明け方。シングワチフサアギ（旧4月の風）

5月（旧暦5月）、ブリブシ、あがると2時間で夜（よ）明ける。フサアギ（フシアギとも聞こえる）の2時間後に夜が明ける。フサアギ、星上ギ、ほしあがりのこと。

- ・ニヌファブシ

ニヌファブシ、大事な星。

ユルハラスニミヤー ニヌファブシメアティ ワンナチャルウヤヤワンドミアテ
ブリブシヤ ユミバユマリシガ

- ・南十字星、ウマヌフシ

南十字星は知らない。ウマヌフシは、聞いたことがない。

- ・ミーチブシ

ミーチブシ、聞いたことがあるが、はっきりとしない。横に3つ並んだ星。(三角形の配列でない))

- ・フシヌヤーウチ

フシヌヤーウチは聞いたことがある。流れ星だ。

こちらから(同行の宮地さんから)フシヌヤーウチィ…と言って、「フシヌヤーウチィ、聞いたことある」という答えがかえってきた。流れ星のことをフシヌヤーウチ。

- ・イリガンブシ

イリガンブシも聞いた。女の人の頭に入れる髪を長く束ねたもの。

- ・ユーアカフシ

明けの星。

- ・ホーキブシ

ホーキブシ、戦争。こちらから(北尾から)イリガンブシ…と言って、「イリガンブシ、聞いたことある」という答えがかえってきた。



写真、右から宮地氏、A2さん、北尾、河合氏



宮地竹史氏は、イリガンブシの名前になっているイリガン(入髪)を、石垣市の八重山民族芸能保存会の方から、舞踊で実際に使用されている現物を見せて頂いた。本物の髪で作られている。彗星のように見える。(写真上)

③浜比嘉島（うるま市）

●先行研究についての金城誠氏への確認（10月17日（木）実施）

浜比嘉島及び糸満市の調査を1980年代に実施した金城誠氏に旗頭星（南十字の星名）等の伝承者について確認をした。

・旗頭星

漁師さんが石を並べて説明し、南十字の下に配列した石を「はと座」の星と金城氏が判断したことがわかった。

一個一個の星を角とかにあてたのではなく、旗頭の上のほうを南十字をイメージしたようであることを金城さんに確認。浜比嘉の集落からは南に山があり、南十字星は見えないが、東の浜に行くと見えるとのこと。

・ウシデークブシ

女の人が旧8月15日に輪になって踊る様子に見立てた。女性が輪になって踊る。漁師から聞く。冠座。

・ムルブシ

浜比嘉のムルブシ（群れ星）のフシアゲ。ニングワチは旧2月、シングワチフシアゲは旧4月の荒れる風。フシアゲはフシ（星が）アゲ（上がる）で、日没後の西の空ではなく東の空。桶でニングワチ（2月の強風）を知ったのは夕方の西の空で、浜比嘉で聞いた。

・クガニミツブシ

クガニミツブシについて、ヤライボシの伝承と似ているがこぐま座 β 、 γ でないことを確認。金城氏の記述、話からすると糸満のクガニミツブシのほうは δ 、 ϵ 、 η であるようだが、浜比嘉のクガニミツブシは、不明である。

（こぐま以外にりゅう、ケフェウスまで含むかどうかについては、金城氏の記憶をたどれなかった。漁師が石を並べて示した配列により金城氏が判断した）

・インソーヤブシ

浜比嘉のインソーヤブシ（イン 犬、ソーヤ 連れていく）は、漁師二人より聞いた。わし座 β 、 γ を連れていく犬に見立てた。 γ のほうが度胸のある犬で主人より先に天の川に入っているという。

（写真右 前列左から金城氏との面談を実現していただいた那覇市牧志駅前ほしぞら公民館、田端館長、福里氏、後列左から同行の宮地竹史氏、北尾、金城誠氏）



現地調査を10月21日（月）に実施し、次のような記録を行なうことができた。

●B1さん（昭和5年生まれ 浮原島出身）

・ユーバンマンジャブシ

ユーバンマンジャブシは、宵の明星。夕飯食べる時に食べたそうに輝いていることによる。

・ユアカブシ

ユアカブシ、夜明け。ユアカブシはイカ釣りの人が見ると言っていた。

・ムリブシ、ムルブシ

夜明け前、十～二十くっついている。「上がっているから帰る」と話していた。てんぬむりぶし、かたまってる。

・ニイヌファブシ

ゆるはらすふにや にいぬふあふしめあて。

・ヤーウチィ

移動する星（ながれほし）

●B2さん（昭和22年生まれ、兼久出身）

ニイヌファブシ、ユーバンマンザークブシ（マンザー：ほ（欲）しがっている）、ムルブシ、ティンガーラ（天の川）を記録した。

宵の明星のことを、（ユーバン）マンザークエーブシとも言っていた。夕飯食べるのを星さんが見て、星が私も食べたいなあ。

ムルブシについては、オリオンというように特定の星を伝えていた。プレアデス星団と混乱しているのかもしれない。

B2さんの母親、昭和3年生まれのB22さんは、「むるぶし。ていんぬむるぶし ゆるはらすふにやわんどみあて わんなちやるうややわんどみあて」と歌ってくださった。

●B3さん（昭和25年生まれ、浜比嘉島浜出身）

「ニイヌファブシ、海に行くときあの星見て」「ユアカブシ（ユアキブシ）、4時くらい出る」と記録した。

（写真右、浜比嘉島で調査中の北尾（左）と友利氏）



④本部町浜崎漁港（10月22日（火））

●B4さん（昭和13年生まれ、本部町浜崎漁港近くの出身）

浜崎漁港にて、「ニヌファブシ 北にありました。ブルブシ見える」と記録した。明けの明星はヨアキブシ、宵の明星はユーバンブシ。

（写真右 浜崎漁港）



⑤本部町渡久地港（10月22日（火））

●B5さん（昭和9年生まれ、本部町渡久地港近くの出身）

本部町渡久地港にて、「ブリブシ、まとまって天の川みたいなまとまった」と記録した。特定のプレアデス星団を意味していないケースである。その他、次のような星名を記録した。

・ニヌファブシ、ニヌファブシ

ユルハラスフニヤ、ニファブシメアテ、ニヌファブシかわらない星。カツオ船、ニヌファブシ、久米島、エンジンついたので行った。ニヌファブシは動かないが北斗七星は動くと言っていた。

・ユーアキヨーカ

（夜明け上がる星をたずねると）ユーアキヨーカ。ヨーカという夜明け。

●B6さん（昭和3年生まれ、本部町渡久地港近くの出身）

本部町渡久地港にて、「かたまっている。ブリブシ。いまでも天気の良いとき見える」と記録した。B5さんの場合と同様、プレアデス星団のみを意味するわけではなかった。その他、ニヌファブシ（北極星、こぐま座 α ）、ユーアケブシ（夜明け星）、ユーバンブシ（夕飯星、宵の明星）を記録した。

⑥伊江島（伊江村）具志漁港（10月22日（火））

●B7さん（昭和18年生まれ、伊江村出身）

伊江島具志漁港にて、「ニヌファブシ、北の側でわかる大きな星。ブリブシ、かたまっている」と記録した。

（写真右 伊江島）



⑦名護市名護港（10月22日（火））

●B8さん（昭和23年生まれ、名護出身）

名護港にて、ムリブシ、ニヌファブシを聞くが、学校等で伝承以外での形態で取得した知識の可能性が大である。特に、ていんさぐぬ花が県民歌として広く歌われ習得した星名であり、年上から年下の伝承とは異なったプロセスを経ている。

（写真右、名護市名護港）



⑧国頭郡大宜見村塩屋漁港（10月23日（水））

●B9さん（話者生年、昭和33年）

大宜見村塩屋漁港にて、ニヌファブシを記録。

⑨大宜見村根路銘（10月24日（木））

大宜見村根路銘において、群れ星について、3人の話者に聞き取り調査を実施した。星がむらがっている、群れていると認知しており、プレアデス星団特定のものとするのは困難であった。

●C1さん（昭和6年生まれ、大宜見村出身）

大宜見村根路銘にて、「ムルブシ、たくさんある星をムルブシ、いっぱい」と記録した。

●C2さん（昭和12年生まれ、大宜見村出身）

「ムルブシ、天の川を言うのでは… 星がたくさんむらがっている。天の川のこと、そのことをムルブシ」「ニヌハブシ、方角わかる」と記録した。

●C3さん（昭和22年生まれ、八重山西表出身）

「たくさんいっぱい小さい星が群れてムルブシ、ムリブシどちらもいう」と記録した。

⑩国頭村辺土名漁港（10月24日（木））

●C4さん（昭和19年生まれ、うるま市石川出身）

辺土名漁港にて、C4さんより次のような星名伝承を記録した。

「ユーバンマンジャーブシ。ユーバン（夕飯）マンジャー（食べたいなあ）ブシ（星）。夕食、食べたいなあーと言っているような、ほしがっている星」

「明け方。ユーアキブシ」

ブリブシについては、次のようにプレアデス星団特定の星ではなく、天の川のように群れている様子を認識していた。

「ブリブシ、天の川だろう。星がいっぱい群れてる」

コンパスやニヌファブシ（子の方星、こぐま座 α 星、北極星）で北の方角がわかるのであるが、実際の航海では次のようにコンパスだけ見ていたら疲労の原因となり、北に輝くニヌファブシだけ見ることができる方向に船を進めるわけではなく、状況に応じて目当てにする星を決めた。

「ニヌファブシ、あっちが沖縄、上見てあの星にあてて。コンパスだけ見ていたら疲れるから、あの赤っぽい星をあてようか…と。めあてにする星の名前はついていない。次は、あの星をまたあててみよう。ちょっとずれている。次はあの星あてて…（というように、めあてにする星を変えていく）」

また、明けの明星については、「イチバンブシ、いちばんに出るから、イチバンブシ」とも伝えていた。

(写真右、C4さん)



(2) 調査データから、今回の科研の目的に沿った天文民俗・天文考古および認知天文学的な分析・考察

①古代から認知の対象となっていたプレアデス星団についての分析・考察

●星名形成の構造

人類が星を認知するとき、次のような星に注目する。そして、それらの形状の特徴から星名が形成される。

他の星に比べて明るい星	特別の方角からのぼる（南中、沈む）星	特別な配列の星
↓	↓	↓
星名形成	星名形成	
例 オオボシ、アオボシ	能登星、淡路星	群れ星、スバル

沖縄県で群れ星のグループの星名を記録することができるが、上図の特別な配列の星に相当する。その群れ星については、先行研究においてプレアデス星団を意味するとされることが多かった。しかし、本研究では、プレアデス星団を意味することは確実であるかどうか、次のような点に留意して、調査データから分析していきたい。

・群れ星がプレアデス星団を意味するケース

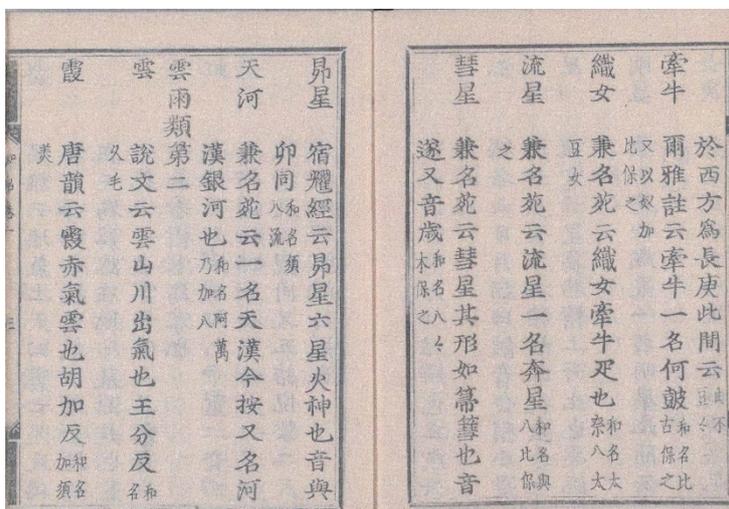
・プレアデス星団を意味するとは限らないケース (プレアデス星団を意味するケースもある)

・プレアデス星団を意味するとは限らないケース (プレアデス星団を意味するケースを認識していない)

●プレアデス星団の星名分布

源順編纂の『倭名類聚抄』
(天部第一 星宿類第一) (931
~938年頃成立) に「須八流」
とある。

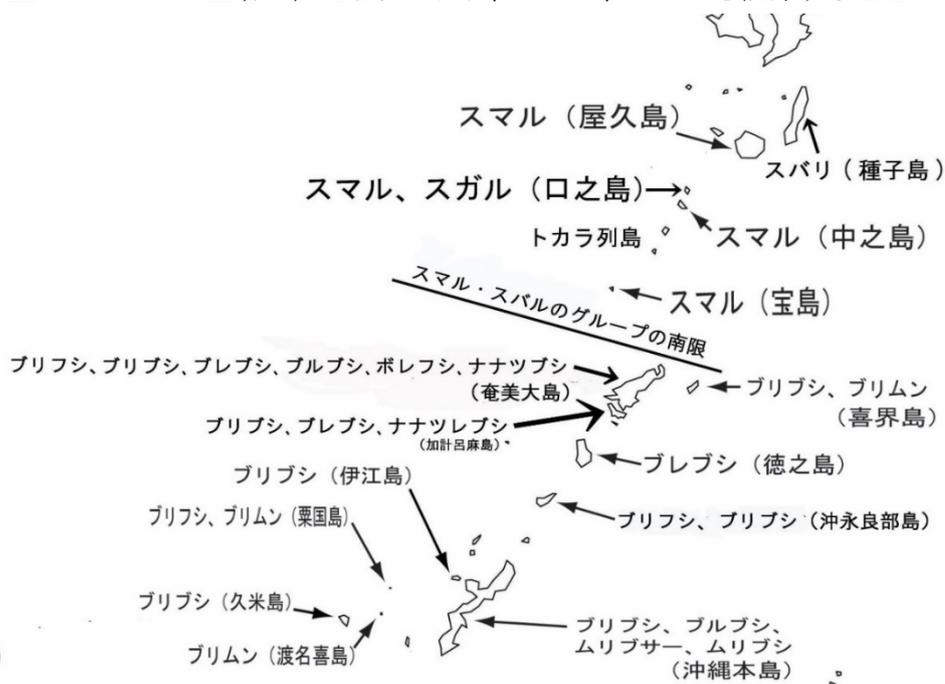
(右図 倭名類聚抄の須八流)
枕草子においても、「星はす
ばる……」と登場し、今ではハ
ワイの「すばる望遠鏡」の名前
にもなっている。ところが、瀬
戸内海の水軍の『能嶋家傳』に



は、次のように「スバル」ではなく、「スマル」という星名が記録されている。

「星すまると云星を見る也。月の出入に日和易らねどもすまると入に替るは日和損する也。殊に秋冬はすまると入を専に見る也。余の星は日和見る事無之」

実際、瀬戸内海地方をはじめ、広く西日本にはスマルが分布する。そして、そのスマルは、図のように、吐噶喇列島まで分布する。しかしながら、奄美大島、喜界島より南においては、群れ星のグループの星名が伝えられており、スバル、スマルを記録することはできない。



(図、吐噶喇列島と奄美大島、喜界島の上に星名分布の境界がある)

群れ星のグループについても、先行研究においても、「スバル」「スマル」と同様、プレアデス星団を意味するものとされていたが、本調査において、プレアデス星団と特定できない次のような事例を記録した。

●本部町渡久地港の事例

次のように、聞き取り調査をした話者 2 名とも特定のプレアデス星団を意味していなかった。

- ・ B 5 さん、「ブリブシ、まとまって天の川みたいなまとまった」
- ・ B 6 さん、「かたまっている。ブリブシ。いまでも天気の良いとき見える」

●大宜見村根路銘の事例

次のように、聞き取り調査をした話者 3 名とも「星がむらがっている」「群れている」と認知しており、特定のプレアデス星団を意味していなかった。

- ・ C 1 さん、「ムルブシ、たくさんある星をムルブシ、いっぱい」
- ・ C 2 さん、「ムルブシ、天の川をいうのでは… 星がたくさんむらがっている。天の川のこと、そのことをムルブシ」
- ・ C 3 さん、「たくさんいっぱい小さい星が群れてムルブシ、ムリブシどちらもい」

●国頭村辺土名漁港

次のように、天の川かどうかははっきりとしなかったが、少なくともプレアデス星団特定の星を意味するのではなかった。

「ブリブシ、天の川だろう。星がいっぱい群れてる」

②気象予知

この場合の群れ星は、プレアデス星団特定の星を意味した場合に限定して伝承される。

季節を知るために、旧暦は不正確になるため、星の出入りによることが正確である。前述の瀬戸内海の水軍の『能嶋家傳』の「星すまると云星を見る也。月の出入に日和易らねどもすまるの入に替るは日和損する也。殊に秋冬はすまるの入を専に見る也。余の星は日和見る事無之」という記述は、11月頃の明け方のプレアデス星団の入り悪天候の予測に用いたものである。

『能嶋家傳』の記述は、現在においても、西日本に広く伝承されている。

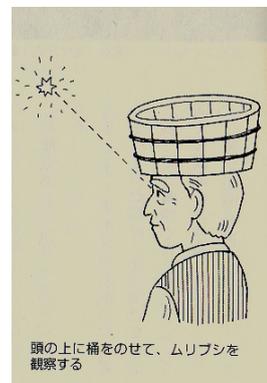
●鹿児島県熊毛郡屋久町栗生（現 屋久島町）の事例

スマルが夜明けに沈む11旬頃、風速30トルくらいの突風が吹く時季をスマルのイイゲシと呼んだ。

「スマルはちょうどな、一二月の下旬頃な、沈むんですよ。海の中に入ってな。そういうときには、ちょうど一二月の下旬頃にな、ニシカゼ、アラカゼが吹くんですよ。明け方に沈むのがいちばんアラカゼ吹くんです」(北尾による1982年の調査)

糸満市の場合は、1979年に次のように記録した。

・薄明の終わる頃、頭の上に桶をのせて、ムリブシが見える二月から五月頃まで突風が吹くと伝えられていた。一月まではムリブシの高度が高く桶に隠れて見えない。星の高度が一定以下にあることを知るために、桶を用いた。



(図右 桶を用いてムリブシを観測した)

一方で、1980年代に実施したアンケート調査で、次のような星上ギという現象を気象予知に用いる事例を記録しながら、はっきりとしなかった。

●フシアギ(星上ギ) (仲里村真泊(現 久米島町))

4月にフシアギといって、突風がある。この突風が吹いた後に夜明けにブリブシがあがる。フシアギが吹かないとブリブシが夜明けにあがらない。ブリブシが見える頃からイカの時期になってくる。

●フサアーギ(星上ギ) (島尻郡渡嘉敷村)

ブリブシ、ミツブシ(オリオン座三つ星)、ユウアカシブシ(明けの明星、金星等の明るい星)の3つが夜明けの明星となる季節に(夜明けにのぼる季節に)、決まって、高波と東向きの強風が吹くので、季節風フサアーギと呼んでいる。その季節風が終わると台風期にはいる。

本調査において、糸満にて星上ギを記録し、沖縄本島においても記録できることが明らかになった。

また、浜比嘉島にて金城誠氏が星上げと桶で強風を知った伝承について、次のように記録していることも明らかになり、複数のデータの記録ができた。

- ・ニングワチは旧2月、シングワチフシアゲは旧4月の荒れる風。フシアゲはフシ(星)アゲ(上がる)で、日没後の西の空ではなく東の空。
- ・桶でニングワチ(2月の強風)を知ったのは夕方西の空。

(3) 今後の研究への発展と課題

① 群れ星がプレアデス星団を意味しないケース

群れ星のグループの星名（ムルブシ、ブリブシ等）が沖縄県内に広く分布しており、野尻抱影氏の著書をはじめ多くの文献でプレアデス星団のこととしている。しかしながら、本調査において、プレアデス星団ではなく、天の川あるいはかたまって配列する星を意味する伝承事例を記録した。プレアデス星団という先入観を持つのではなく、ひとつでも多くの伝承事例を調査する必要があることが判明した。次のように調査を続行し、データ数を増やしたい。

・本調査で出会った話者が星に関する事項の記憶を十分にたどれなかったケースが国頭村等、多数ある。再調査を実施すれば新たな話者から星名伝承の記録が可能なケースもある。さらなる、再調査、追調査を検討する。

・本島及び周辺島嶼部のなかで、東海岸、伊是名島、西海岸においても今帰仁村等、未調査地域があり、それらの調査を実施したい。

・沖縄本島より距離が離れ日帰りが困難な栗国島、渡名喜島、渡嘉敷島等の調査を実施し、全体像を明らかにしていく。

・上述の群れ星について、沖縄県内全体を調査のデータ数を十分に増やして記録していく。

・県立図書館、琉球大学、伝承センター等に所蔵されている文献資料を地域の人と連携して収集する。

なお、地域の人とともに歩くことは調査の上でのメリットが大きく、今後も可能なら検討する。また、一度訪問した箇所も再度訪問することによって、新たな伝承との出会いがある。たとえば、国頭村宜名真にて、80歳を越えるC5さんに話を聞こうとするが、昔のことは忘れたということで聞けなかった。

（写真右 国頭村宜名真）



② 古代から現代にわたるまでの天体の認識、星名伝承形成を明らかにするにあたって南西諸島の位置づけ

日本の星の基層文化の研究にあたって、奄美大島、喜界島より南、即ち南西諸島の星名伝承は、吐噶喇列島以北と大きく異なっている。それらの相違点は、日本の星の認知構造について発展させていくポイントとなる。特に、先行研究、星名記録のデータ数が絶対的に不不足しており、現地調査に比重をおきたい。

また、次の点に留意したい。

・南西諸島を与那国で切れたものとしてではなく、連続したものとして捉える。台湾の離島、

ポリネシアを含めて、星名形成、星空の認知について、データ数を増やし、日本の星の基層文化の構造を明らかにしていく。

南西諸島の星名伝承の研究、しいては星を認知し、文化形成に至る構造の解明にあたって、未調査地域、データがアンケート調査でしか記録していない地域がなお多数存在し、調査を重点的に進める必要がある。既に調査を実施したところも、再調査、追調査を続け、データを蓄積していくことが必要である。

.....

(話者名一覧表・・・個人情報につき取り扱い注意)

- A 1 : 宮城正成さん、昭和 9 年生まれ、喜屋武出身
- A 2 : 玉城亀助さん、昭和 6 年生まれ、糸満出身、糸満市字糸満 9 8 9 - 1
- B 1 : 新里三郎さん、昭和 5 年生まれ、浮原島 (うきばるじま) 出身
(浮原島は、浜比嘉島の南東約 3 km に位置する)
- B 2 : 玉那覇 (たまなは) 清勇さん、昭和 2 2 年生まれ、浜比嘉島兼久出身
(うるま市勝連比嘉 1 1 3 4 - 3、TEL 098-977-8204)
- B 2 2 : B 2 さんの母親、昭和 3 年生まれ、玉那覇ヨシさん
- B 3 : 後東さん、昭和 2 5 年生まれ、浜比嘉島浜出身
- B 5 : 平良幸信さん、昭和 9 年生まれ、本部町渡久地港近くの出身
- B 6 : 平良せんこうさん、昭和 3 生まれ、本部町渡久地港近くの出身
- B 7 : 宮城 (みやぎ) よしたかさん、昭和 1 8 年生まれ、伊江村出身
- C 1 : 宮城ちょうせいさん、昭和 6 年生まれ、大宜見村出身
- C 3 : 新城 (あらぐすく) さん、昭和 2 2 年生まれ、八重山西表出身
- C 4 : 山城義勝 (やましるよしかつ) さん、昭和 1 9 年生まれ、うるま市石川出身、2 4 歳より辺土名在住
- C 5 : 浦崎永守さん、80 歳を越える。